

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	-	-
180010	敗血症	同一	14	0.51%
		異なる		
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる		
180040	手術・処置等の合併症	同一	80	2.89%
		異なる		

・播種性血管内凝固症候群

さまざまな重症の基礎疾患のために過剰な血液凝固反応活性化が生ずるため生体内の抗血栓性の制御能が十分でなくなり、全身の細小血管内で微小血栓が多発して臓器不全、出血傾向のみられる予後不良の病気です。

別の疾患で入院された患者さんが入院後に発症したケースが多い。

・敗血症

肺炎や腎盂腎炎など生体のある部分で感染症を起こしている場所から血液中に病原体が入り込み、重篤な全身症状を引き起こす症候群です。

敗血症の治療目的入院が多い。

・真菌症

真菌によって引き起こされる疾患の総称。主にカンジダ菌により皮膚に起こるものと、カンジダ菌・放線菌などにより内臓に起こるものがある。免疫の低下しているときに日和見(ひよりみ)感染として発病することが多い。

・手術、処置等の合併症

手術や処置などに一定割合で発生してしまう病態です。術後出血や創部感染などが挙げられます。

合併症の治療目的入院が多い。

当院では透析患者さんの「シャント部分」の合併症がメインであった。